２．　社会的活動における課題アプローチ

人間は自然の中に一人で生まれてくることはできません。必ず、母から生まれるし、それには父の存在が欠かせません。つまり、人間の社会的生活の基本単位は、親子であり、家庭であることは言うまでもありません。

しかし、母にも父にも、その年齢になるまでに経験してきた個性がありますし、能力や資質の特性があります。それらの影響を受けずに育つことはほとんど不可能です。施設で育つ人の場合も、血縁関係は無くても、面倒を見てくれる大人たちの大きな影響を受けて育つことは間違いありません。

また、年齢を重ねるにつれて、次第に、知識や技術を習得していき、自我の芽生えとともに、周囲への自発的なアプローチを行うことで、更に急速に、密度の濃い関係を築き上げていきます。これによって、毎日、瞬間瞬間、手に入れていく情報は、必ずしも言語情報だけに限らず、明るい部屋かどうか、笑いの多い場所かどうか、愛着接点の多い関係かどうか・・・と、これは数え切れないほど、多くの要因に触れていくことになります。

これら全ての関わりの中から作られていく基盤や資質能力の特性を捉えることで、どのような課題要因があるのかを抽出し、アプローチする方法を用意していきます。これによって、クライアントのジョハリの第４の窓を開き、特性に応じた有効なカウンセリングやコーチングを行っていくことができるからです。